

日本科学者会議東京支部主催

# 第19回東京科学シンポジウム

テーマ 理性と希望の平和な時代を拓く

— 反知性主義・分断・不公正とたたかう —

12月9日(土)～10日(日)

会場 中央大学多摩キャンパス

詳しくは、裏面をご覧ください



第10分科会 12月10日(日) 13時～15時45分 (3160教室)

## 科学・技術の現状批判

### — 日本の科学・技術の健全な発展のための課題

安倍政権は、大地震・火山噴火・豪雨などの大災害、輸送・電力・通信などライフラインの事故多発、コンピュータ技術やインターネットなどを利用したハイテク犯罪への対応はまるでそっちのけで、軍需産業の育成・国家安全保障上の諸課題(特に軍装備の高度化)へ向けて研究者の思想動員に血道をあげている。このような現状の打開のために、私たちは、科学・技術の現状、そのグローバル化・ブラック化、研究者の社会的責任・役割、国民となすべき対話などについて、広く議論、交流する場としたい。



#### 報告テーマと報告者

- ・「デュアルユース」と軍事研究について—衛星通信、光通信の初期の研究開発をふりかえって— 長田好弘 (武蔵野通研分会)
- ・軍事生産現場の実態 海老根弘光 (電機・情報ユニオン)
- ・人工知能・IoT技術の軍事利用を許さないために 酒井士朗 (武蔵野通研分会)
- ・「日本型研究開発」を考える—競争力、知識基盤経済イノベーション、デュアルユース、そして科学・技術政策 兵藤友博 (立命館大学)
- ・地方独立行政法人化などで変遷する地方公設試験研究機関の現状と問題点 横山敏郎 (JSA国公研委員会、東京支部)
- ・国立研究開発法人のいま—研究機関を国民の手に取り戻すために 小滝豊美 (JSA国公立試験研究機関問題委員会、茨城支部)

# 多彩な企画でみなさまのご参加をお待ちしています

特別報告 12月9日(土) 13:00～17:00 (3351教室)

1. 世界史のなかの「いま」を生きる—中東・世界・日本のゆくえと「平和憲法革命」の課題—  
栗田禎子(千葉大学大学院人文科学研究教授、歴史学・中東研究)
2. 自衛隊加憲論と政府解釈—平和で公正な社会を考える—  
浦田一郎(一橋大学名誉教授、憲法学)

参加費(予稿集代込み)  
2000円(一般)  
1000円(院生・学生)

詳しくは 日本科学者会議東京支部まで

☎ 03-3811-8281

ホームページ(JSA東京支部で検索)

## — 23の分科会で発表と討論 —

- 1: 国連平和への権利宣言とわたしたち
- 2: リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流
- 3: 原発問題を考える文学サロン
- 4: 院生・若手小さな冬の学校
- 5: パリ協定とエネルギー基本計画
- 6: 首都圏の防災・減災を考える
- 7: 「復興」を考える
- 8: 核兵器禁止条約の意義と今後の課題—市民社会の役割に焦点をあてて
- 9: 次世代につなぐ平和と女性研究者・技術者
- 10: 科学・技術の現状批判—日本の科学技術の健全な発展のための課題
- 11: 軍学共同への抵抗の現段階とこれから—日本学術会議の新声明を受けて—
- 12: 「安倍改憲」、その本質・波及追究と改憲阻止運動の課題
- 13: 科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る
- 14: 支部活動の拡大強化・活動活性化のために  
～日本科学者会議 50年の歴史から教訓を求めて～
- 15: サイバー空間の平和利用のために
- 16: IT技術と教育・労働・社会生活
- 17: 暴走する安倍教育行政ストップ、憲法を基本にした教育再生を!
- 18: 築地市場の豊洲移転 築地市場存続の意義と豊洲市場移転のデメリット
- 19: 国民生活向上の経済運営はいかにあるべきか
- 20: 非正規雇用問題を考える
- 21: 暴走する大学「改革」の諸問題
- 22: 若手活動の取り組みから見る支部活動  
—JSA 内外の交流をいっそうの活性化へ—
- 23: トランプ政権とアメリカ社会

## 会場へのアクセス



## 主要駅からのアクセス

- 多摩モノレール「中央大学・明星大学駅」から徒歩1分
- 京王線「多摩動物公園駅」から徒歩10分
- 小田急・京王線「多摩センター駅」下車。バス(13番バス停)で12分
- JR「豊田駅」下車、バス(4番バス停)で15分

その他 ポスターセッションと展示コーナー  
(両日開設)